

第4回若年人口増加に向けた検討会

日時：令和6年9月13日（金）13:00～14:30

場所：高知県立県民文化ホール 4階 第6多目的室

出席：委員6名中5名出席（オンライン出席4名を含む）

議事：（1） 今後検討すべき施策等の方向性について
（2） 意見交換

1 開会

2 意見交換

・議事について、県から説明し、意見交換を行った。

※以下、意見交換の内容を発言委員ごとに掲載（以下、常体で記載）

（1）【資料1】人口減少対策としてのプロモーションの展開について

（竹村委員）

記者発表や、関東・関西の電車等での広告、その先のデジタルマーケティングと良い構成でまとまっているのではないかと思います。

また、多様な価値感に対応できる本県の強み・可能性が、プロモーションを提案する側の一番のポイントになると思うが、可能性という言葉はどう解釈できるかが、このプロモーションの成功の鍵になるのではないかと思います。

例として、「若者が活躍できる企業があること」とあるが、他にもライフスタイルに関することなど、全般的に通じる要素があると思われるため、「可能性」の掘り下げ方が、高知県の若者の多様性に対応していくうえでのポイントになると思っている。

今回の内容は、その視点もしっかりと入っているので、プロポーション戦略として良いものになっていると思う。

（2）【資料2】「若年人口増加に向けた検討会」における高知県が今後検討すべき施策等の方向性（案）

（飯盛委員）

産業振興や子育て、住宅関係など幅広い分野の施策がとりまとめられているが、問題はこれらの施策をどのように総合的に実施していくかだと思う。若年人口の増加という大きな目標を達成するためには、総合的に取り組んでいかないと意味がない。

また、地域おこし協力隊の方々に活躍いただくというのは、高知県だからこそ効果的にできることではないかと考えている。高知県は、地域おこし協力隊員の方々が全国でもトップクラスに多く、1次産業に従事されている方々も多いと思う。そういった方々は、起業家精神を持って、高知県に移住しており、高知ファンの若者として活躍している。こういった方々を核として、このような方々が、暮らしやすい・住みやすい高知県を作っていくという視点も、大事だと思う。

また、大阪府、東京都など大都市にいる若者の意見を直接聞く機会を設けた方がよいと考えている。そこでの意見を集約して、対策を練っていくことで、有効な施策を立案するヒントとなり、結果的に県外在住の若者がUターンしたいと思えるよう後押しをすることにも繋がっていくと思う。実際にある地域では、そういった県外在住者との意見交換の場を作ったところ、いろんな効果があったということを耳にしている。

そのようなことを踏まえて、県内からも県外からも高知県が盛り上がり、いろいろな人たちに関心を持ってもらえるようになっていければと期待をしている。

(江崎委員)

11 ページの「背景（委員意見・若年女性ヒアリング意見等）」の【委員からの意見（推進委員会・検討会）】について、アクティブで高知を面白く元気にしてくれる人が欲しい、と書いてあるが、そのような人以外にも、例えばおとなしいが地道に取り組む人などもUターンしていただきたいと思うので、そういうことも含んだ上で、元気な人という表現だろうと理解している。

最近若者の自己肯定感、自己評価が低いというようなことがよく言われている。この表現を見たときに、自分は呼ばれていないのかと思ってしまう方がいないとも限らないと心配している。

また、この自己肯定感が低い問題は、人口問題とも密接に関わっているのではないかと考えている。日本全体の問題であり、高知県だけの問題ではないが、人口が減っている中で、経済は成長しなければならないので1人当たりの生産性を上げなければならないと言われる状況になっている。結果的に、若い人に対しても様々なスペックが求められるようになっている。学歴はもちろん、コミュニケーション能力や、グローバルに活躍できる力などが要求されている。そうすると、普通に優秀な学生であっても、まだ何か足りないのではないかと考えてしまうのだろう。

これはさらに、人口問題にはね返ってくる。なぜ最近若者が結婚しないのか、子供を積極的に持たないのかということ、要求水準が高いことが影響しているのではないかと。自分が親になって、次の世代をしっかりと育てていけるか不安だからではないか。

もちろん若者が努力して、自己を高めていくことはいつの時代も大事なことであるが、世の中の風潮として、人口が減っており生産性を上げていかなければいけないから昔以上に頑張らなければならないと言っても、若者に、今の社会経済状況がこうなっていることについての責任はないので、それを言いすぎるとするのは、却って逆効果なのではないかと考える。

(守泉委員)

2 ページと4 ページの「背景（委員意見・若年女性ヒアリング意見等）」の【委員からの意見（推進委員会・検討会）】2 ポツについて、「男性と女性の賃金格差を埋めることが必要」と記載されているが、「男性と女性の賃金格差の要因を分析し解消することが必要」という表現に見直した方がよい。

男女の賃金格差に関しては、何が原因なのかは地域によって異なると思うが、男女の職域分離が原因なのか、勤続年数なのか、管理職割合で差がついているのかなど、どれが優勢なのかがわかると、職域分離であればジェンダー平等、勤続年数であれば管理職割合や両立支援というように賃金格差解消の糸口が見えてくるのではないかと。

また、全体的な話として、少子化対策や若年人口の増加は非常に広い問題に関わる事象であるので、いろいろな面からアプローチをして、トライアンドエラーで取り組んでいく必要がある。

これまで人口減少対策については、コスト・ベネフィット（費用便益）のような観点で見られてきた面があり、結婚や出産、子育てのコストを下げれば、それらを希望する人が増えるのではないかという発想があったと思う。そのために、いろいろな経済的支援や両立支援に取り組んできており、高知県でも実施してきたところだと思う。

ただ、近年の傾向として、結婚や出産の価値、つまりベネフィットのほうに関して、若者たちの考え方が大分変わってきているのではないかということが指摘されている。

今回この会議に関連して、若い世代にヒアリングをしたり、アンケートをしたりと非常に精力的に、若者たちが結婚や出産などのライフコースに関する意識について、どういうふうに思っているのかを深く把握しようとしていたと思う。若い世代の声や若者たちの考え方、意識の捉え方がどのように変わっているのかを把握しながら、政策を考えていくことは、非常に大切だと考える。

そうした観点も捉えながら、実際に具体的な施策にブレイクダウンしていただきたい。

（藤井委員）

3ページの「検討すべき施策等の方向性（案）」⑦2ポツ「出産等により退職した女性の再就職支援」は、企業に勤めている人が前提になっていると思う。しかし、例えば、都会で何らかのスキルを身につけ、結婚して、高知県にUターンして子育てをしようという女性がどのような働き方をするかといった場合に、企業に就職するだけではなく、今まで自分が築上げてきたスキルや人脈などを生かして自営業としてやっていくという選択をする女性も多いのではないと思う。そういった観点から5ページの「4. 起業支援のさらなる充実」に、学生に向けた起業支援だけではなく、子育て中の女性なども対象にした支援を盛り込んではどうか。

また、8ページの「8. 若年層に向けた住宅施策の充実」について、第2回の検討会でも申し上げたが、学校教育の視点が必要になってくると思う。教育施設の充実も、住宅地開発ではセットだと思う。高知県ならではの教育のあり方を住宅環境の中に盛り込むことを検討いただきたい。

そして、9ページの「11. 多様な出会いの機会の創出のさらなる充実」について、若者からすれば、自分たちが自発的にやっている楽しい活動の中で、自然な出会いがある方が好まれるのではないか。例えば、高齢者施策では、高齢者の生きがいづくりや居場所づくりなどの支援としては、「高齢者の多様な活動の支援」という言い方をしていると思う。そういう視点からすると若い世代の多様な交流機会だけではなく、例えば、若者の多様な活動を支援することで交流機会が拡充されるというニュアンスにした方がいいのではないと思う。

具体的には、交流館のような活動の場を演劇や音楽などのサークル活動に貸し出すなど、若者の自発的な活動の支援や、そのような活動を優遇する施策があるといいと思う。そうすると、若者の方々の生きがいづくりにも繋がり、その活動を通じた交流関係というものが高知県で広がっていくと考える。

最後に、全体として拝見したときに、たくさんの政策が並んでいて、非常に関連性が強いものとなっており、それぞれの施策が効果を発揮する順序があると感じた。例えば、雇用環境の

改善や働き方改革がスタートとなって、女性の経済力がアップしたり、若者の県内就職率が上昇したりと波及していく。今後、様々な政策を実施する中で、それぞれの政策の間の相互関連性を検証していただきたいと思う。

さらに、相互関連性だけではなく、高知県でこのような政策を実施した場合に、このような波及効果があったという因果関係にも踏み込んで検証していただきたい。

(竹村委員)

人口減少対策は、すぐに効果が出るものではないので、取り組み続けていくときに、成果の見える化をしっかりと実施していく必要がある。トライアンドエラーを繰り返しながら、できることとできていないことの見える化が、並行してできると大変よいのではないか。

(中村理事)

修正のご指示、あるいはご希望いただいた部分につきましては、事務局の責任校正とさせていただきます、本案を本検討会としての高知県が今後検討すべき方向性とさせていただきます。

改めて、各委員の皆さま、お忙しい中、短期間で時間を割いていただき、感謝申し上げます。

いただいた方向性については、可能な限り幅広くしっかりと検討していく。具体的には、県庁内にある本部会議、あるいは、元気な未来創造戦略の全体進捗管理を行う推進委員会において、本方向性を踏まえた来年度に向けたバージョンアップ施策をしっかりと検討して提案していきたい。

4ヶ月間、本当にどうもありがとうございました。

3 開会